

4 ワークスしんあい 事業報告（平成 29 年度）

1 経営方針に関わる概要

平成 29 年度におけるワークスしんあいの概要は、以下のとおりであった。

（就労移行支援事業）

「障害者就業・生活支援センターかわごえ」とチームを組み、各利用者の就職活動を進めた。関係機関と連携を図り、就職を念頭に置いた職場見学や実習を設定し取り組んだ。

（就労継続支援 B 型事業）

清掃班、室内班（就労・生活）、喫茶班、食品製造班の 4 つの作業班体制で取り組んだ。食品製造班は、学校販売や地域行事への参加の他、茶房ひとときと連携し焼菓子等の販売をすることで収入アップを目指した。室内班については、数社から仕事を受託することで、安定した作業提供を目指した。また、喫茶班は、施設外就労の場として就労意識の向上を図ることができた。

（生活介護）

室内での軽作業に取り組むことで、規則正しい生活習慣を身につけることを目的とした支援を行った。作業能力の高い利用者については、本人の希望を聞きながら就労継続支援事業の作業班での実習を通じ、働く力の向上を図った。また、各個人の生活の安定を図るため、必要に応じて関係機関と定期的なケース会議を行い、支援方法の検討を行った。

(1) [施設の基本目標]

- ・利用者の人権を尊重し、利用者の立場に立ったサービスを提供する。
- ・地域や家庭との結びつきを重視した運営を行ない、市町村や他の障害福祉サービス事業所、保健医療サービス機関等関係諸機関との連携に努める。

(2) [利用者]

就労移行

定員 6 名だが、延べ 4 名が就労移行支援事業を利用した。そのうち、2 名の利用者が職場実習を実施し一般企業へ就職した。また、1 名は就労継続支援 B 型事業へ移行した。

就労継続 B 型

定員 14 名であるが、出席の状況から延べ 17 名の利用者を受け入れた。今年度は、比較出席率は安定していたが、週に 1 度の利用契約をしている方が 2 名いることもあり、多くの人数を受入れても上手く稼働することができた。

生活介護

定員 20 名であるが、出席の状況から 26 名の利用者を受け入れた。年度途中で 1 名の利用者が就労継続 B 型事業から異動した。また、体調不良による欠席者も多かったが、職員の声掛けにより登所率の向上が図れた。

(3) [行事]

利用者の希望に応じた余暇支援として、計画的に旅行、外出、地域との交流事業等の活動を行った。基本的には、平日は仕事を重視する観点から週末に余暇活動を行い、生活介護については、週一回散歩やプールを設定し体力維持を図った。

また、地域の販売行事へ多く参加することで利用者の励みにすることができた。

(4) [作業]

(就労継続支援 B 型)

清掃班 施設外就労として、職員 3 名、利用者 7 名及び就労移行利用者 1 名、生活介護利用者 2 名の利用者と作業班を編成し、みどりのまち親愛と親愛南の里での清掃作業に取り組んだ。グループを分け、各々の能力に合わせた作業支援を行った。

室内班 利用者 6 名、生活介護利用者 4 名が施設内実習として参加し作業に取り組んだ。主にソーラ電機の模型組み立て、朝日新聞の古紙袋封入作業、川越市広報誌の配布作業を行った。しかし、朝日新聞作業は業績不振のため廃止となり、広報誌配布の作業は見積額が合わず委託を受けることができなかった。また、不定期ではあるが、森商工(株)の段ボール仕切り組み立て作業や社協資材の梱包作業を行い作業の安定化を目指した。

喫茶班 ワークスしんあいの出張所とし、食器洗浄、調理補助、ホールでの接客の他、利用者が施設外就労場所として働く意義を感じられるよう支援した。他の作業班へ参加している 3 名の利用者がシフトを組み、順番に作業へ参加した。

菓子製造班 職員 3 名、利用者 6 名で焼き菓子の仕込み、成形、梱包作業、生菓子製造に取り組んだ。そのうち 2 名の利用者は、曜日によってひとときや室内、清掃作業へ参加するため、メンバーの入れ替えが日々あったが、力のある利用者が多く、安定して作業に取り組めた。また、商品の品質の維持向上を図り、常時、清潔な衛生環境を意識し支援を行うように努めた。

(生活介護)

室内班 利用者 20 名で作業に取り組んだ。障がい特性により、2 つのグループに分かれ作業を行なった。ソーラ電機、森商工(株)の作業は、就労継続支援 B 型の室内班と作業分担し取り組んだほか、生活室内の単独作業としては、(有)クラウドの自動車部品組立やみつばち作業所からの出版物の解体作業等の簡単な下請け作業を行った。また、自主製品として、布草履、コースターなど手芸品を作成した。布草履は好評で受注が多くあるが、利用者の重度化に伴い、携われる方が少なくなっている。

(5) [設備面]

- ・男性トイレの老朽化のため、便器交換、ユニットトイレ内外装の改修を行った。
- ・生活介護の老朽化した洗面台を新しい物と交換したため、利用者にとって使いやすくなった。

(6) [保健衛生面]

看護師の配置により、利用者の体調不良や作業中のけがの対応、定期健康診断について適切な対応が行えた。また、適宜、バイタルチェックを行い、利用者の健康管理に努めた。食品製造班、喫茶班については、衛生面での始業前チェックや温度管理を徹底し、衛生事故が起こらないよう予防管理を徹底した。

2 利用者状況

(1) 入退所の状況 (名)

種別	性別	定員	28年度末現在 在者数	29年度中 入所者数	29年度中 退所者数	29年度末現在 在者数
就労移行	男	—	3	0	2	1
	女	—	1	1	2	0
	計	6	4	1	4	1
就労継続 B型	男	—	15	1	1	15
	女	—	3	0	0	3
	計	14	18	1	1	18
生活介護	男	—	23	0	0	23
	女	—	3	1	0	4
	計	20	26	1	0	27
計	男	—	41	2	3	40
	女	—	7	1	2	6
	計	40	48	3	5	46

(2) 入所前の状況 (名)

日中区分 種別	就労	家事手伝	他の 支援施設	学校	その他	計
(就労移行)	1	0	0	0	0	1
(就労継続B)	0	0	0	0	1	1
(生活介護)	0	0	0	0	1	1

(日中その他)：ワークスしんあい他の事業から変更

(3) 退所の理由 (名)

日中区分 種別	就労	家事手伝	他の 支援施設	支援 学校	その他	計
(就労移行)	2	0	1	0	1	4
(就労継続B)	0	0	0	0	1	1
(生活介護)	0	0	0	0	0	0

(日中その他)：ワークスしんあい他の事業へ変更

(4) 障害程度区分 (名)

程度区分	生活介護			就労継続			就労移行		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
区分6	8	1	9	2	0	2	0	0	0
区分5	6	2	8	1	0	1	0	0	0
区分4	6	1	7	1	0	1	0	0	0
区分3	3	0	3	0	0	0	0	0	0
区分2	0	0	0	2	0	2	0	0	0
区分1	0	0	0	1	1	2	0	0	0
なし	0	0	0	8	2	10	1	0	1
合計	23	4	27	15	3	18	1	0	1

(5) 年齢構成 (名)

区分 種別	性別	20歳未 満	20歳以 上～30 歳未満	30歳以 上～40 歳未満	40歳以 上～50 歳未満	50歳以 上～60 歳未満	60歳以 上	平均 (歳)
就労移 行	男	0	1	0	0	0	0	21
	女	0	1	0	0	0	0	21
	計	0	1	0	0	0	0	21
就労継 続B型	男	0	5	5	2	3	0	36
	女	0	1	1	1	0	0	34
	計	0	6	6	3	3	0	36
生活介 護	男	1	4	6	5	4	3	47
	女	0	0	0	0	4	0	56
	計	1	4	6	5	8	3	52

(6) 療育手帳・身体障害者手帳所持状況 (名)

[療育手帳]

区分 種別	性別	㊤	A	B	C	なし	計
就労移 行	男	0	0	1	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	0	1
就労継 続B型	男	1	2	8	3	1	15
	女	0	0	1	1	1	3
	計	1	2	9	4	2	18
生活介 護	男	4	8	8	3	0	23
	女	0	2	2	0	0	4
	計	4	10	10	3	0	27

(なしの場合、身障手帳、精神手帳を保持)

[身体障害者手帳] (名)

区分 種別	性別	1級	2級	3級	4級	5級	計
就労移 行	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0
就労継 続B型	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	1	1	0	0	2
	計	0	1	1	0	0	2
生活介 護	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0

3 安全・安心の確保

(1) 防災・防火訓練

回	月 日	訓 練 名	内 容
1	10月26日(木)	防災訓練	通報・避難訓練、DVD鑑賞
2	3月15日(木)	防災訓練	通報・避難訓練、消火器訓練(大東分署立会)

4 利用者支援

5月にケアプランを作成し、個々に面談を行ない支援内容の確認を行った。3ヶ月ごとにプランの見直しを行ない、それぞれの希望に沿った支援を行った。

(1) 日中支援の実施状況(名)

ア [作業]

「清掃班」「室内班」(就労室内班・生活室内班)「喫茶班」「菓子製造班」に分かれ作業を行った。

(所属延べ人数)

区分 施設種別	性別	清掃	室内	喫茶	菓子 製造	生活 室内	計
(就労移行)	男	1	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	0	0	1
(就労継続B型)	男	7	5	2	1	0	15
	女	0	1	0	2	0	3
	計	7	6	2	3	0	18
(生活介護)	男	2	3	0	0	18	23
	女	0	1	0	1	2	4
	計	2	4	0	1	20	27
計	男	10	8	2	1	18	39
	女	0	2	0	3	2	7
	計	10	10	2	4	20	46

(2) 主な行事の実施状況

4月2日	自閉症啓発デー
4月3日	入社式
4月29日	休日開所
4月27日～5月7日	ひとときアニバーサリー
5月21日	ふれあい福祉祭り
6月18～19日	会津旅行
6月25～26日	札幌旅行
6月30日	横浜旅行

7月18日	オアシスプール
7月22日	休日開所
8月4日	夕涼み会
8月26日	休日開所
9月9～10日	矯正展
9月30日	ガス展
10月3日	街頭募金
10月8日	スポーツ大会
10月14日	川越まつり販売
10月29日	福祉の市
10月31日～	ひととき感謝祭
11月11～12日	川越産業フェスタ
11月23日	三者の会
12月2～3日	障害者週間の集い
12月23日	クリスマス忘年会
1月15日	新年会
2月17日	いちご狩り
3月21日	休日開所

(3) 地域生活移行を目的とした支援

就労移行支援事業による就職活動を行い、関係機関とのチーム支援により一般就労ができるように支援した。

(4) 課題のある利用者への支援

家庭及び活動の中で特別な支援の必要な利用者については、本人、家族、職員、ケースワーカー、関係各機関等と連携し、定期的にケース会議を開き対応を協議した。

(5) 余暇活動への支援

高階市民センターにて公民館主催（川越市施設連絡協議会共催）による「川越市障がい者青年学級」の南学級ボランティア担当として毎月の参加と活動運営を行った。親愛会から7名の利用者が参加し、調理実習や課外活動に取り組んだ。

(6) 地域との交流

法人及び社協等の団体主催の催事や、パスティカーロの菓子販売での行事や事業所等の販売が増え、地域との交流を図ることができた。また、障がい者青年学級により地域ボランティアや地域の方々と交流する機会が増えた。

5 地域社会との共生

(1) 在宅支援事業の実施状況

ア 現場実習生の受け入れ状況

区分	特別支援学校等（か所）	人数（名）	延べ日数（日）
（就労移行）	4	8	40
（就労継続B）	2	7	38
（生活介護）	1	2	13

イ その他の在宅支援事業の実施

見学者の受け入れ状況

(ワークスしんあい)	件数(件)	延べ人数(名)
計	35	105

(2) 地域交流・地域資源の活用について

ア ボランティアの受け入れ

受入事業	延べ人数(名)	受入事業	延べ人数(名)
川越市障がい者青年学級	71		
合計	71		

6 効果的・効率的な施設経営

(就労移行支援事業)

今年度は、就業・生活支援センターかわごえと連携し、2名の利用者が就職した。また、昨年度までに就職した利用者に対し、定期的に定着支援（職場訪問、ワークスでの面談等）を行った。

(就労継続B型事業)

14名の定員に対し18名の受け入れを行った。毎年、定員より利用者の契約数が多いが、ご本人の状況により週に1度の契約のもと利用されている方も2名いる。受け入れ人数が多いため、毎月、出席率の計算を行い把握することで人数が超過しないようにした。

(生活介護事業)

平均障害認定区分と職員配置数の基準に沿った職員配置を行っている。利用者の平均障害区分が重度になり、支援を要する障がい特性を持った方が増えてきているため職員体制を多く配置できるように取り組んだ。

7 職員研修

(1) OJT

全職員が日勤であり、少数であることからコミュニケーションが取りやすく、細かな指導研修ができた。パート職員を含め業務を通して意思疎通は良好であった。

(2) Off-JT

今年度は、外部研修に積極的に参加し、それぞれの職員のスキルアップを目指してきた。利用者支援に関わることの他、職員の姿勢に対する（コミュニケーション、アングーマネジメント等）研修にも多く参加することができた。

(3) SDS

目標管理シートに基づき各々が目標を立て取り組んだ。また、虐待について考える機会を設け、日々の支援の中での振り返りを各職員で行った。

8 その他

実習生・研修生の受け入れ

区分	実習校等(か所)	人数(名)	延べ日数(日)
実習生(体験学習)	0	0	0

研修生	1	8	4
-----	---	---	---